

ICT 活用による学校教育相談チェックリスト・プログラムの開発

(指導教員 世木 秀明 准教授)
世木研究室 0931130 野呂 周平

1.はじめに

学校教育において、知能検査や面接相談などによる専門的で詳細な評価をするなどの教育相談支援活動は非常に重要であるとされているが、時間的、物理的、心理的な制約から十分な教育相談を行うことが難しいのが現状である。

一方、近年の教育現場は ICT 活用が盛んになっており、教師や保護者らがインターネット環境を利用することも一般的になってきた。

本研究では、こうした背景をふまえ、児童・生徒の発達状況と支援ニーズの評価をおこない、対象児童・生徒の教育支援計画立案支援をおこなうことが可能なインターネット環境を利用した学校教育相談チェックリスト・プログラムの開発を目的とした。

2.教育相談とその問題点

教育相談とは、児童・生徒の学校生活における学習相談、進路・就職相談、生活相談などを包括した名称で、充実した教育をおこなうために重要であるとされている。しかし、現実には以下のような問題点があり改善が望まれている。

- 1.教育相談の専門家が相談者数に対して少ない上、特に地方は専門家数が不足するため、相談利用者は遠方の専門相談機関に出向く必要があるなどの距離的な問題
- 2.相談内容などは時代性が反映されるため、相談方法などを常に新しく考案していく必要がある問題
- 3.親がわが子を客観的な視点でみることができないことや、周囲の目を気にしてしまうという心理的な問題

3.学校教育相談システム構成

本研究で開発した学校教育相談チェックリスト・プログラムを提供するシステムの構成を図1に示す。

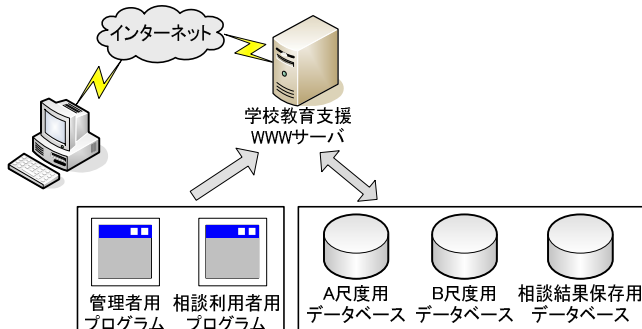


図1 システム構成

学校教育相談支援 WWW サーバには、相談利

用者用プログラム、管理者用プログラム、A 尺度チェックリスト用データベース、B 尺度チェックリスト用データベース、相談結果保存用データベースから構成されている。

相談利用者はインターネット環境に接続されたパソコンを使用して相談支援 WWW サーバに接続し、教育相談チェックリスト・プログラムから提示される質問項目に答えることで対象児童・生徒の教育支援に関するアドバイスを取得することができる。また、教育相談専門家は管理者用プログラムから相談結果を参照することで、相談利用者が対象とした児童・生徒の発達状況や支援ニーズを把握することが可能である。本研究では、学校教育相談プログラムの開発に PHP、html5 を利用し、WWW サーバには Apache、データベースには MySQL を使用した。

4.学校教育相談プログラムの概要

本研究で開発した学校教育相談プログラムは、生活習慣、手先の巧緻性、言語表現、社会性、行動コントロールの5領域から成るA尺度チェックリストと、こだわり、ひとりの世界・興味関心の偏り、感覚の過敏さ、身体性・運動、多動性・衝動性、集中力、意欲、学習、話し言葉、心氣的訴え・不調の10領域から成るB尺度チェックリストの2種類から構成されている。

ここで、A尺度チェックリストは、100項目の質問があり、質問項目の回答結果から対象児童・生徒の総合的な発達段階とそれに対応した到達学年を推定することができるものである。また、B尺度チェックリストは、50項目の質問があり、対象児童・生徒の総合的な支援ニーズのレベルを推定することができる。

本研究で開発したプログラムでは、A尺度チェックリストとB尺度チェックリストを相談者にチェックさせ、その結果をもとに対象児童・生徒の発達段階、到達学年、および総合的な支援ニーズのレベルを推定し、教育支援に関するアドバイスを表示する。

5.まとめ

本研究で開発した学校教育相談プログラムを専門家に試用してもらい、「現在の教育相談が抱えている時間的、物理的、心理的な問題点の多くが解消されることから、今後有効な教育相談の一つとなりうると思われる」という意見をいただいた。

このことから、本研究で開発した学校教育相談チェックリスト・プログラムは、学校教育相談支援に有効なプログラムであると考えられた。